

データウェアハウスに対する考え方

目次

- I. データウェアハウス、データマート、OLAP
 - II. データウェアハウスの必要性
 - III. データウェアハウス概念図
 - IV. データウェアハウス構築のポイント
- (参考) データウェアハウス関連製品分類

I. データウェアハウス、データマート、OLAP

1. データウェアハウスとは

基幹DBから分離され、意思決定・データの分析を目的とした次の属性を持つデータベース。

- ①一元管理 (Integrated)
- ②目的別に整理 (Subject Oriented)
- ③時系列に統合 (Time Variant)
- ④決して書き換えない (Nonvolatile)

データの倉庫

2. データマートとは

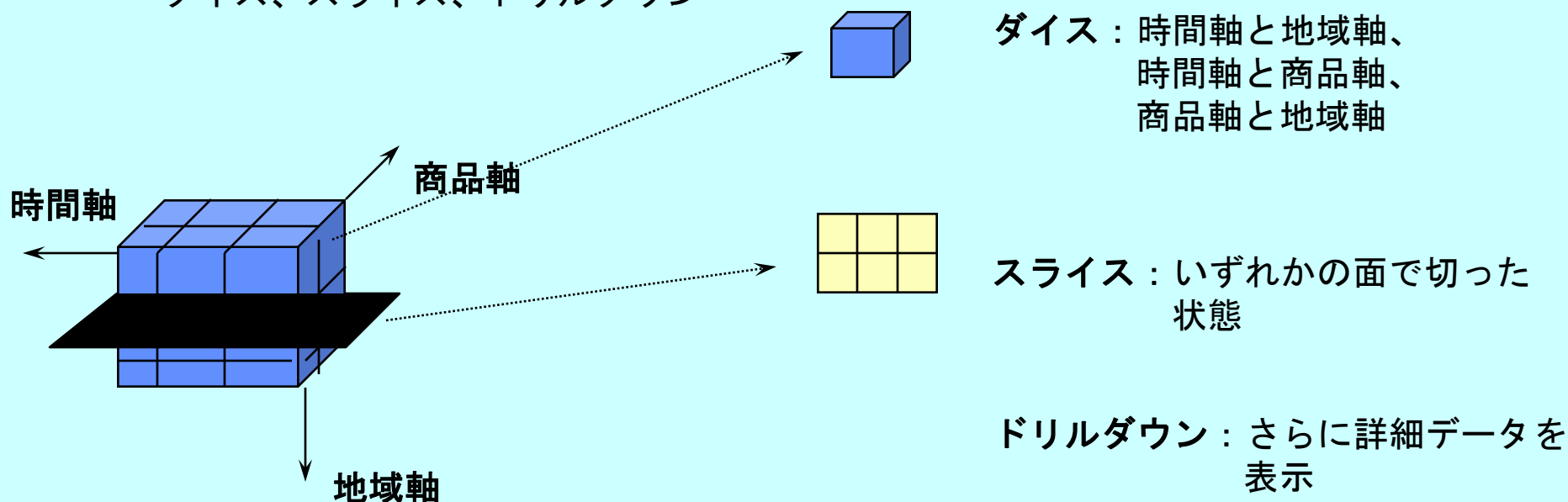
データウェアハウスで整理されたデータを

- ①利用者の種類に合わせた環境で
 - ②利用者の必要な表現で
 - ③利用者の思考を妨げないレスポンスを
- 提供し、データウェアハウス内データのより有効利用をはかるデータベース

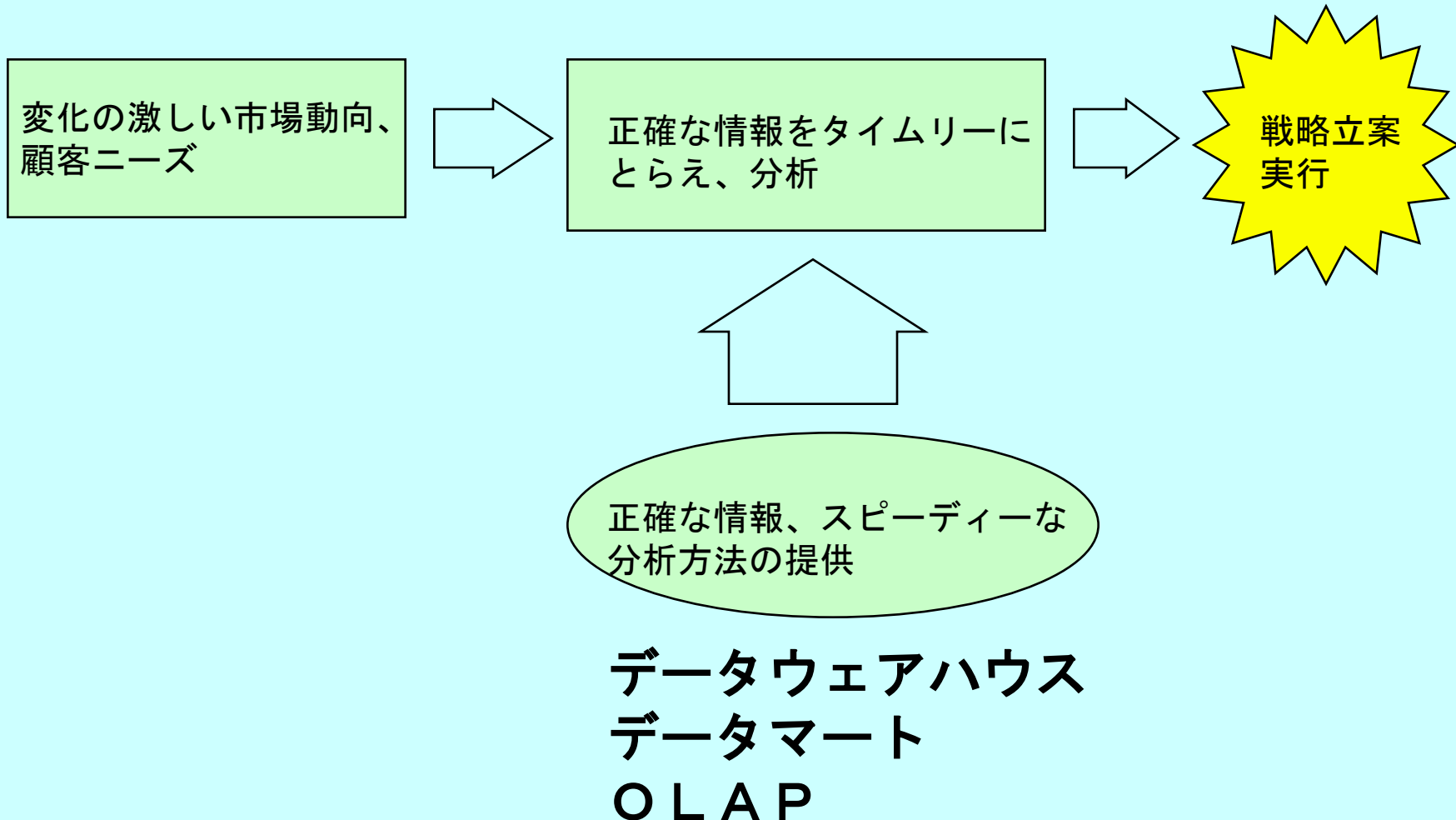
データの小売り店

3. OLAPとは

- ・ Online Analytical Processing
- ・ 多次元技法（地域軸、商品軸、時間軸など）による企業活動のための効果的かつスピーディなデータ分析処理
- ・ ROLAP：RDBを入力にした多次元分析。柔軟性 大。
- ・ MOLAP：MDB（多次元DB）を入力にした多次元分析。高速性 大。
- ・ ダイス、スライス、ドリルダウン



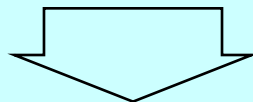
Ⅱ. データウェアハウスの必要性



企業戦略への情報活用例

1. 小売業

POSデータから、商品の売れ方を把握
(併買分析、時間帯分析、客層分析、販促効果分析など)

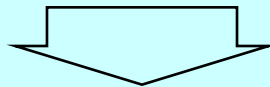


店舗内レイアウト、棚割
売れ筋、死に筋管理
効果的な販促

2. 金融業

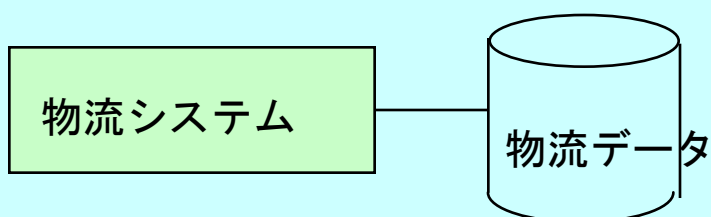
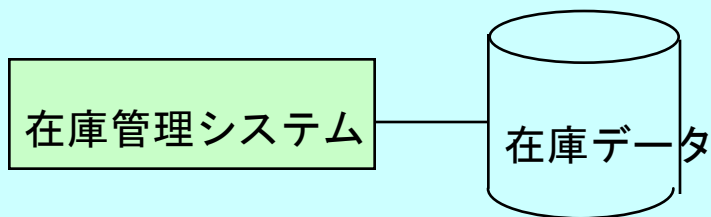
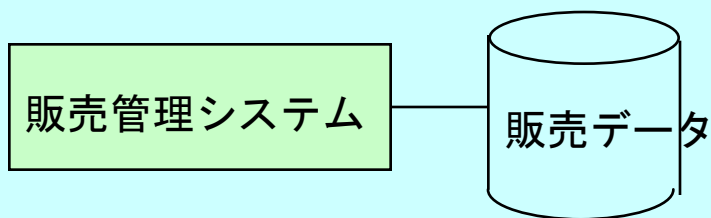
顧客取引データを分析・活用

個人顧客重視の営業



個人顧客の開拓
顧客ニーズの把握による新商品開発
テレマーケティングとの連動

従来システムでは



EUCツールでの
データ検索・分析



正確なデータが
タイムリーに
得られない

分析用パッケージでの
データ分析・加工

見たいデータが
見たい形でない



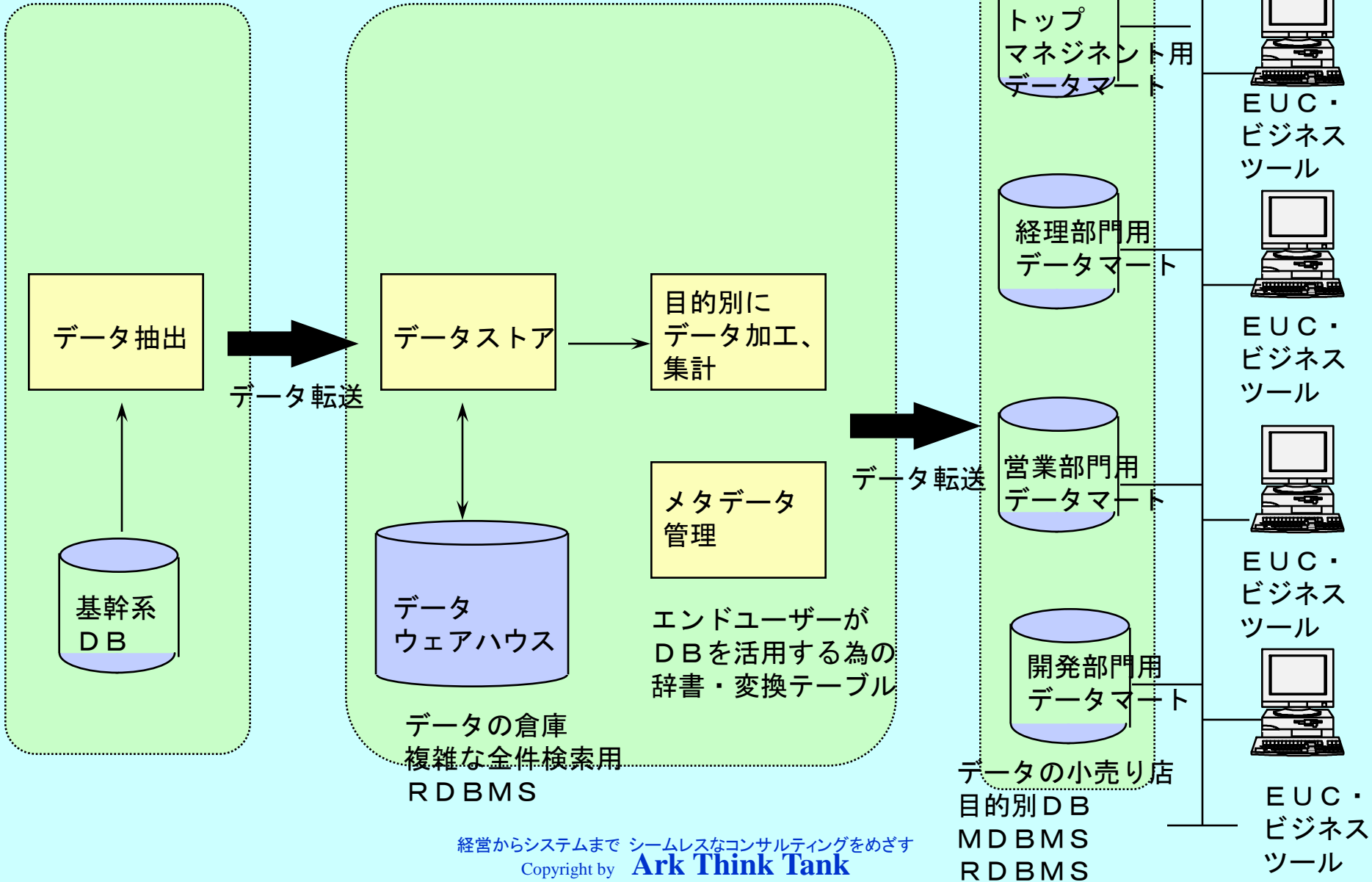
分析方法ごとに
AP開発

業務ごとにデータ開放

Ⅲ. データウェアハウス概念図

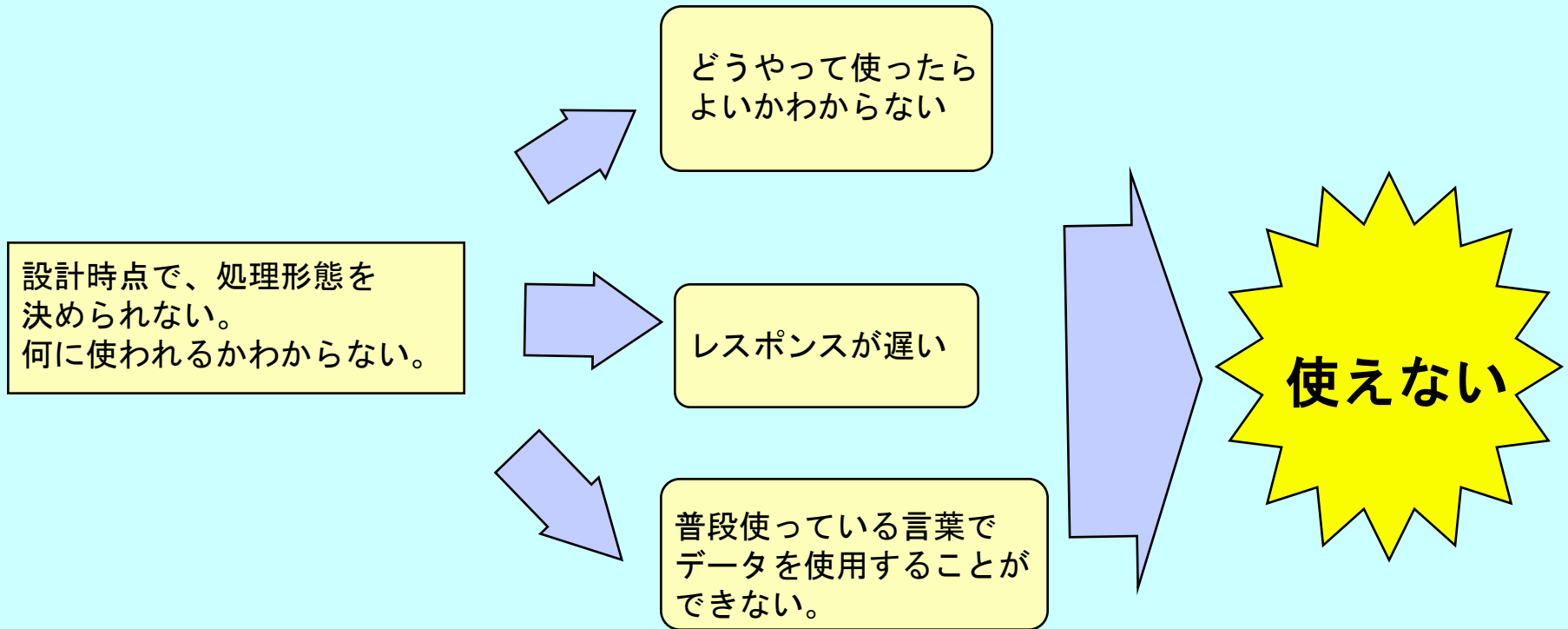
基幹・業務系システム

データウェアハウス・システム



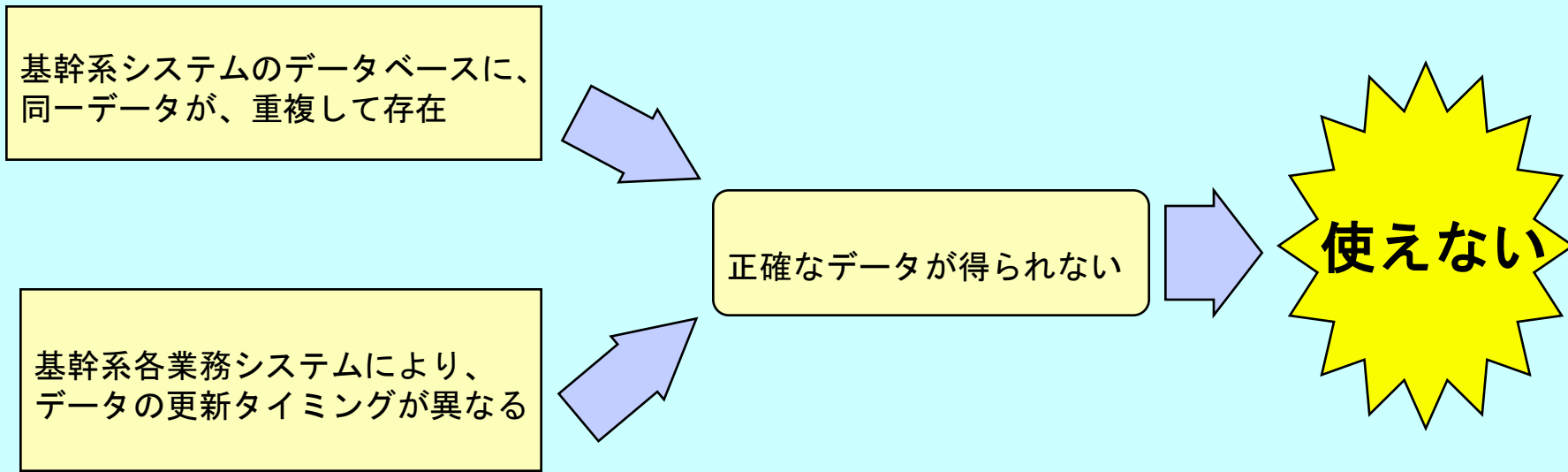
IV. データウェアハウス構築のポイント

使えないデータウェアハウスの原因（１）



- ・ 典型的な使われかた／シナリオの設定が必要
利用観点の整理
データの切り口（管理ポイント）の分析
- ・ メタデータの整理が事前に必要

使えないデータウェアハウスの原因（２）



基幹系システムのデータ分析が重要

データウェアハウス構築のポイント

企画・設計段階での十分な検討がポイント

1. データウェアハウスの典型的な使われかた／シナリオの設定が必要
利用観点の整理
データの切り口（管理ポイント）の分析
2. メタデータの整理が事前に必要
3. 基幹系システムのデータ分析が重要

利用者を含めた十分な検討を